

令和元年9月立山町議会定例会一般質問通告概要

(R1.9.5～18)

※ 質問順番

1番	坂井	立朗	議員	5番	石田	孝夫	議員
2番	村上	紀義	議員	6番	髪口	清隆	議員
3番	内山	昭	議員	7番	澤井	峰子	議員
4番	平井	久秋	議員	8番	後藤	智文	議員

1番 坂井 立朗 議員

(1) イノシシ対策について

- ①抜本的な対策を取らないと将来、耕作放棄地が著しく増大することを危惧するが、どのように考えるか。
- ②農作物を守るだけでなく、地域住民の安心安全を優先的に考えなければならない時期を迎えているのではないか。
- ③総じてワイヤーメッシュ柵等の設置により、山際対策に取り組む必要を感じないか。

(2) 全国学力テストについて

- ①今年度の町の子どもたちの結果はどうであったのか。(言える範囲で)
- ②従来見られた、小学校は高く、中学校になると成績が低下する傾向は今年どうであったのか。
- ③例年と同様であったとすれば、改めてリーディングスキルテストと向き合い、しっかりと検証し対策を考える必要を感じるが。

(3) 高齢者等買い物・通院タクシー対策事業について

- ①この事業の運営に関し、どのように取り組むつもりか。
- ②高齢の方が対象となるので、申請の手続きを解かり易く簡素なものにする必要を感じるが。

(4) 県道富山立山公園線の歩道について

下段集落内S字カーブの緩和に感謝すると共に、改めて残りの区間(先ずは三千俵用水～ローソンまで)の整備促進と早期完成を望むが見通しは。

2番 村上 紀義 議員

(1) 災害対策について

高齢化・人口減少・災害多発時代における持続可能なまちについて

- ①猛暑、いたる所でのゲリラ豪雨、今年も日常的と言っていくくらい自然災害が発生している。災害多発時代とも言われかねない。行政もこれまでの見方や対応を見直していく必要があるのではと思う。
突発的な自然災害も多く発生する中で、住民の意識も変えていかなければならないと思う。スピード感を持って、災害への取り組みが求められる中で、「自助・共助・公助」。何事も行政任せという考えも変えていかなければと思うが、町長としての思いを伺う。
- ②自治体にとって災害への対応は、最大の行政課題といっても過言ではないと思う。水害や土砂災害は頻度も可能性も高い。いつ発生するか分からない地震も重要な災害と認識をしてい

く必要があると思う。常願寺川や白岩川、栃津川等の河川や中山間地の地滑り地域、弥陀ヶ原活火山を抱える本町。災害に強いまちづくり、何処まで出来ているのかを伺う。

(2) 外国人の受け入れについて

県内在留外国人は18,000人を超え5年連続で増加し、全国22位だ。7月に公表された人口動態調査では富山県に住む日本人は約104万人で昨年より7,000人ほど減少した中で、外国人を含めた人口増加率は全国で10番目だ。

本年4月に改正施行された入管難民法（出入国管理及び難民認定法）。外国人就労の受け入れを拡大する新制度だ。近年、多くの外国人を見受けられるが、現在本町で外国人住民登録者が何人住まわれているか。

また、自治会加入の状況は。来日外国人を巡っては技能実習生の失踪が相次いでいることで社会問題となっているが、本町での問題点や課題があれば伺う。

(3) 生活習慣病と医療について

糖尿病は重症化するリスクが高く、進行すれば神経障害や網膜症、糖尿病性腎症など合併症を引き起こす。治療を受けていない人は全国で4人に1人とも言われる。また、人工透析が必要になると多額な治療費がかかる。

予防対策の充実が急務とも聞かすが、本町の透析にならない為の予防の取り組みについて伺う。

(4) 建物のアスベスト処理について

昭和30年頃から50年頃に安価なアスベストを使って建てられた民間家屋や公共施設が、今解体時期を迎えている。町のアスベスト処理費は多額だ。

①民間の家屋や建築物解体にも除去マニュアルが適用され、また徹底されているか。

②町内において、アスベストを使用している、もしくは使用していると思われる建築物の把握はされているか。また、除去等での補助金制度はないのか。

③アスベストを使用していると思われる公共施設の今後の対応は。

(5) 農業について

①スマート農業について

本町の農家戸数、経営耕地面積、農業従事者数も減少している。従事者の高齢化と共に、若手担い手不足も深刻化している。そんな中に地域に若者、担い手を引き込む「スマート農業」が注目されている。

多くの人が、多様な場所で使え、省力化・見える化が可能だと分かってきた。また導入によって生産性の向上に繋がる先進的農業には、ドローンやロボットトラクター等ICTやAI技術を活用した「スマート農業」の推進が必要だと思う。

町の担い手対策、先進的農業の現況とスマート農業の取り組みについての認識について伺う。

②中山間地地域農業の維持について

重要な時期に入る本町の中山間地域の農業の維持管理。「このままだと地域農業が無くなるのでは」と言う不安な声も聴く。

農業、農村の再生は、何よりも必要なことは町の現状に合わせた「地域リーダーの育成」だと思う。いかに農業に対する愛着と、生産意欲を持続した農業従事者になってもらうかが重要な課題だと思う。

中山間地農業、持続維持する施策の「中山間地域直接支払制度」。とりわけ条件不利地が多く、保全作業は大変であり、支援が十分とは言えないのでは。町の更なる支援策も拡充すべきと思うが、所見を伺う。

3番 内山 昭 議員

(1) いじめについて

タレントや声優として活躍する「はるかぜちゃん」こと春名風花さん（18歳）が、公式ツイッターに「いじめについて思うこと」を投稿し、反響を呼んでいる。

いじめに苦しむ人たちに向けて、「そんなにつらい学校なんて、行かなくていい」というメッセージを発信する人たちがいる。春風さんは、その言葉に従った場合に生じる不利益について言及し、さらに、解決策も投稿した。

「学校に行かなくていいよ」というのは簡単だ。でもその子が不登校になることでかぶる不利益は誰も責任を取ってくれない。そこで、いじめが発覚した時点で、学級閉鎖にし、いじめていない子は普通に授業を受けてもらい、いじめた疑いのある子を問題解決するまで自宅待機とする。学校で授業を受ける権利を奪われてしまう点について、春風さんは疑問を呈した。

そして、「被害者は普通に授業を受け、加害者が自宅待機」という対策を提案した。周囲や被害者のみならず、加害者本人のためにもなる方法を考えた結果、たどり着いた答えだと思う。

学校によっては、「被害者に学校を休ませる」以外の対策も取られているかもしれない。しかし、多くの学校では、被害者が学校を休まざるを得ない対応をとっておられるのではないかと。

立山町においても少なからず、不登校はあるようだが、春名風花さんの考えについて、教育長のお考えを伺う。

(2) 豚コレラについて

去る7月5日、隣接の岐阜県で、豚コレラに感染した野生イノシシの確認を受け、富山県はいち早く、養豚場周囲への野生イノシシの侵入防止柵の設置や、捕獲強化のための罠についても、各市町に2弾、3弾の増設を指示し、計146基の増設を行った。捕獲活動費も従来の倍増しにするなど、豚コレラ緊急対策事業として、県は予備費を活用し、現時点での最大限の策を講じた。

しかし、去る8月22日、豚コレラ対策で捕獲したイノシシの死骸を埋める富山市の埋却場で、死骸の埋め方が浅いなど不適切な処理があったことがわかった。

県によると、埋却方法については、深さ1メートルの穴に死骸を埋めた後、最低でも50センチの土をかぶせ、消毒を徹底することなどを市町村に指導しているとのこと。

県内には19の養豚場があり、約3万頭が飼育されている。現時点では、感染した野生のイノシシは5頭見つかっているが、養豚場への豚コレラ感染はないようだ。

立山町でも芦見地内に養豚場があるが、養豚場周囲の野生イノシシ侵入防止柵の設置や、石灰の散布による感染防止対策は終了している。

何としても、養豚場への豚コレラ感染がないよう祈るばかりだが、わが立山町を含めたその後の状況が分かればお聞かせ願いたい。

(3) バス停の安全確保について

主要地方道立山魚津線、大石原バス停前の排水溝の整備と一部歩道の拡張工事について、お尋ねする。

児童の通学路安全推進会議の合同点検で、ご確認いただいているとは思いますが、バスから降りる時の足元の不安定さや、ガードレール付きの歩道は10メートル位しかないが、幅約50センチ位と狭く、児童にとって大変危険な場所となっている。

地区からの指摘があるまで気づかずに、遅れてしまった。早急の対応を願う。

4番 平井 久秋 議員

(1) 立山小学校通学路の拡幅について

県道富山立山公園線宮路～宮路東交差点途中から立山小学校に向かう通学路は、道路左右に用水路があり、そののり面が現在は草が生えていたり、民家の前では個人でのり面をかさ上げしてコンクリートで固めたりと、統一性のない無駄なスペースになっている状態である。朝夕の通学時間帯にスクールバスが通り、デイサービスの車が行き交うなど、時間帯によっては一時的に重なり合う。

また、冬季には除雪の雪が路上に残り、さらに狭くなる。そこで、左右の用水路ののり面を垂直に立ち上げることで、現在の道路幅を場所にもよるが、左右 50cm～1 m、トータルで 180cm 程の拡幅が可能となる。用地買収もいらず、格段に安全性が向上すると思うがいかがか。

(2) 有害鳥獣対策について

① イノシシ対策及び処分について

先般、富山市で、捕獲したイノシシの処分に不備があり地域住民に大変な不安を抱かせる状態だったことが発覚した。現在、立山町では、豚コレラに感染したイノシシは見つかっていない。しかし、行動範囲が 3～5 km といわれるイノシシが感染したまま移動した場合に、万が一の事態に備えた準備、又、処分方法はどのようになっているのか。立山地区内に自然の中で豚の飼育をしている業者がいるが、管理、指導体制はどのようにしているのかを伺う。

② グレーチング付き U 字溝について

イノシシに加え、近年シカの出没もよく聞く。イノシシ同様、野菜や木の芽を好み冬季には樹皮をめくり食用にし、木を枯らすという。電気柵ではイノシシ用の 2 段では対応できないため、今後はやはり恒久柵が必要になると思われる。電気柵より効果が高いとされるが道路で分断されてしまうことがネックになる。東谷地区で林道の入口で、分断された恒久柵の間を「グレーチング付 U 字溝」でつないでいると聞く。その効果のほどはどうか。

また今後、農道での使用を考える集落に対して、電気柵同様の補助はあるのか。中山間地域で林道でなく、一般道での敷設を考えた場合、どのような問題点が考えられるかを伺う。

(3) 放課後子ども教室、かがやき教室の防災マニュアルについて

町では、現在 8 箇所放課後子ども教室やかがやき教室を開いていただき、学習教室やスポーツ、文化活動を行っている。多くは、小学校を使っているが、利田地区は公民館も使用している。学校防災マニュアルがあり、日中、児童、生徒はその指針に従い生活しているが、放課後子ども教室やかがやき教室には、町で統一した防災マニュアルはないと聞く。放課後児童クラブとこのような教室では、目的や管轄も違うが、同じように放課後を過ごす子どもたちが、場所は違えども同じ安全管理のもとで活動できるようにするべきと思う。災害はいつやってくるかわからず、町として、早急に統一した防災マニュアルを策定したらと思うがいかがか。

(4) 消火時に利用する用水の案内について

火事場での消火の際、消火栓と同様、重要になるのが農業用水である。消火栓ではいざという時に距離が遠いとか、数が限られているなど、農業用水を利用する機会は多い。しかしこれからの季節、収穫を控えた水田では、農業用水の水量は一気に減っていく。団員の地域割りがなくなる分団で、用水の水源を把握している人は少ない。各分団の管轄内で、幹線用水から支線用水の取り入れ口や配置がわかるような案内はできないか。団員にサラリーマンが増え、なかなか時間のない分団員のためにも、また地域の安心、安全のためにもなると思うがいかがか。

5番 石田 孝夫 議員

(1) 老朽管の緊急更新と水道料金の見直しについて

立山町水道料金等検討委員会の提言に基づき、計画的に老朽管の緊急更新を行うことやその財源は国の補助金等を最大限に生かすほか水道料金についても見直すことを、先般開催された議員説明会にて伺った。

これからの計画の具体的な取り組みについて確認のため伺いたい。

また、水道料金値上げについて低所得者に対する減免などの配慮を行わないのか。

(2) 砦の丘に休憩所とトイレを

人気の高い砦の丘公園は多くの子供たちに人気があり、家族連れでにぎわっているが、休憩所には日除けがなく、トイレもない。幾度となく質問が出ているが、前回のように5,000万円もかかると言わず、簡易的でも構わないので、是非、子供たちのために整備して頂きたい。

(3) シンボルロードの早期開通を

総合公園東側からスーパー農道までのわずかな道路が開通しないのはなぜか。

(4) 移住定住について

富山県の中でも立山町の知名度が高いにもかかわらず、なぜ移住定住されるランクが下位にあるのか。

町職員で町外在住の方から見た立山町の魅力、住みたくなる町にするには何が不足しているのかを匿名でいいから伺いたい。是非、アンケートを。

(5) ふれあい食堂について

「ふれあい食堂なかよし」では120名の方が参加されたが、各地区で行われたふれあい食堂の認知度や参加者数・年齢層・提供された食事や催し物などについて各地区住民の反応や協力していただいたボランティアスタッフの意見はどうであったか。

今後も継続して行う予定があるのか。

6番 髪口 清隆 議員

(1) 健康寿命について

今年度予算の性質別歳出では、扶助費に係る経費の割合が多くなってきている。

扶助費は、社会保障制度の一環として、生活困窮者、児童、老人、心身障害者等を援助するために必要な経費だが、高齢化がますます進みさらに増加していくと思われるが、健康寿命を延ばし、平均寿命との間が縮まればこれらの経費を抑えられるのではないか。

①近年、健康志向の高まりからパークゴルフ人口が増えてきているが、立山町には、よしみねパークゴルフ場1カ所しかない、今後造成予定は。

②新たな造成には多額の費用がかかる、富山県常願寺川公園内に建設するように県に要望してもらえれば、町の負担もなく、町民・県民の健康寿命延伸に繋がると思われるがどうか。

(2) 高機能消防指令システムについて

平成26年12月から消防救急デジタル無線システムの運用を開始し、同時に高機能消防指令システムを導入し、早くから町民の安心・安全の為に、防災力の向上に努めてこられた。

①導入から約5年弱経過し、いずれ更新の時期が来る。長期的な計画を立てられていると思う

が、費用面など具体的な計画は。

- ②県西部では各地区の消防本部が消防指令事務を共同運用している県西部消防指令センターがあり、現場到着所要時間の短縮効果や、維持管理費・更新費用の削減等さまざまなメリットがあると聞く。近隣消防本部との共同運用の可能性は。

(3) 移動販売事業の現状について

3月の一般質問の中で、移動販売事業を本年夏ごろから開始予定との答弁を頂いたが、9月に入っても未だに行われていない。

- ①遅れている経緯と、現在の状況は。
②本格的な開始はいつ頃なのか。

7番 澤井 峰子 議員

(1) 町の活性化について

- ①「立山ファミリーカード」が9月30日でポイント付与が停止となり、それに代わる「たてポカード」が10月1日よりスタートする。今後、「たてポカード」を活用することでの利便性や世代・生活習慣によって楽しみ方が各々違うと思うが、その詳細と幅広い世代への周知をどのように考えているかを伺う。
- ②運転免許証をお持ちでない75歳以上の方や障害者手帳をお持ちの方への交通手段を守るため、町内タクシー・町営バス運賃助成事業の具体的な取り組みを伺う。また、マイナンバーと連携した「たてポカード」の紛失や破損した場合等の対策を伺う。
- ③先日、国はマイナンバーカードのスケジュールを打ち出したが、2020年10月に増税対策としてスマートフォン決済事業者と連携し国費でのポイント上乘せを示しているが「たてポカード」との関係性、またマイナンバーカード普及率向上への対策を伺う。
- ④まちなかファームで文具の販売や駄菓子屋など、子どもたちが集まる仕組みをと思うが、町の見解を伺う。

(2) 防災について

北海道胆振東部地震で被災したむかわ町での行政視察において、様々な対応や平時からの準備態勢の重要性を学んだ。

- ①むかわ町では災害時、ご家族を残して駆けつける職員やご家族の命を守るため、寝室の家具を固定するよう徹底しているとのことである。わが町では職員に対しどのような対策・意識付けを行っているかを伺う。
- ②災害発生に備え、災害協定や災害廃棄物処理への対応など有効かつ迅速な対応可能となるよう、平時から情報収集、また防災担当の育成が重要であると思うが町の対策を伺う。
- ③火山や土砂災害などの可能性を抱えるわが町にとって、単独で災害対応業務を実施することは困難であることから国や民間企業、ボランティア団体等の応援受け入れを前提とした体制を構築することは重要である。
- 我が町における受援計画策定への取り組みをと思うが町の見解を伺う。

(3) 子育て支援について

- ①10月から始まる幼児教育・保育の無償化について
1. 利用する施設によって開始年齢に違いがあることや、また保育の必要性の認定による違いがある等、個々の状況に併せての対応となるため丁寧な周知が重要である。町の対策を伺う。

2. 副食費実費について、低所得者世帯の免除が継続となり、年収 360 万円未満の世帯が免除対象となった。多子世帯への対応はどのようなかを伺う。
3. 無償化に伴う、入所数の傾向や保育士確保の対策を伺う。

②切れ目ない子育てへの包括的支援はわが町にとって重要である。なかでも産後うつや産後クライシスといった課題があるなか、今後さらなる産後ケアの充実・対策を伺う。
また、富山市まちなか総合ケアセンターでの病児保育やお迎え型病児保育、そして産後ケア応援室の活用状況を伺う。

(4) 自動車急発進防止装置の助成について

昨今、高齢者の運転による事故が多発している。その多くはアクセル・ブレーキの踏み間違いともいわれおり、痛ましい事故を目の当たりにし、運転免許証の自主返納をされる方が増加している。しかし、わが町のように、車なしでは生活に困る方にとっては、悩ましい問題となっている。

そこで、町でも自動車急発進防止装置への助成を検討してはと考える。町の見解を伺う。

8 番 後藤 智文 議員

(1) 防災について（行政視察から）

- ①建物の解体費用は、国は全壊しか面倒を見ないが、むかわ町では、半壊にも支援をした。町として支援する条例を整備すべきではないか。
- ②むかわ町では、被災者に対して町県民税、固定資産税、国民健康保険税などの減免規定を設けている。立山町条例にも「災害」という文言はあるが、被災者支援として町も整備しておくことが必要ではないか。
- ③被災者生活再建支援制度も国だけの支援では足りない。町としての支援制度を確立すべきではないか。
- ④解体された災害廃棄物の受け入れ場所は、入り口に鍵のかかる広い場所が必要だが、確保することが必要ではないか。
- ⑤いざという時のためにコンビニや農協、重機関係のリース会社と協定を結ぶべきではないか。
- ⑥非常時に役立つために、米などの備蓄を町給食センターにしたらどうか。大災害時には学校は休校になるが、給食センターは稼働し、食事を配給することを考えてもいいのではないか。

(2) 水道料金の見直しについて

- ①緊急ということで10%、15%と使用料を見直すが、なぜ緊急なのか。開会日の提案理由説明ではその理由が述べられていない。町民に丁寧な説明をし理解を得る努力が必要ではないか。
- ②財源の中で、通常分より追加分の事業費が多いにもかかわらず、企業債は少ない。借金が多くなるのはどうかと思うが、水道料金を抑えるためにも長めの企業債を組んではどうか。

(3) ひきこもりについて

- ①内閣府調査に基づくと、15歳から64歳までの立山町でのひきこもりは240人ほどいることになる。(人口比) 国民的課題になっている今、県も実態調査に乗り出しているが、町も実態調査をし、対策を練るべきではないか。
- ②小・中学校の不登校児は、将来のひきこもりにつながる。現在の不登校児は何人いて、その対策はどのようにしているか。

(4) 町民の関心事について

- ①立山黒部世界ブランド化問題で、現在の進捗状況はどうなっているか。星野リゾートホテルやロープウェイ建設についてはどうか。
- ②今年度、称名滝で取り組まれている電動シニアカーの利用状況はどうか。また、県が今後、電動車両の運行を検討されているがどんなものか。
- ③立山ブランド海外展開拠点施設と日本酒醸造施設の建設進捗状況はどうか。町内産の酒米の調達は可能なのか。
- ④「ぎゅっと立山フルーツ整備事業」で取り組まれているジュースづくりの進捗状況はどうか。機械などの投資が続いているが採算はどうか。
- ⑤町づくりの観点から、ナビオ・カーマ跡地の再利用が望まれる。民間の土地や建物なので難しいと思うが、現状と今後の展望をどう認識しているか。

(5) 消費税について

消費税の増税は今回、たくさんの条例改正につながっている。増税は町民生活に多大な負担を強いることになるが、町長の認識を問う。